

開会のご挨拶

—はしがきにかえて—

中国犯罪学研究会の皆様、今年もまたこうして皆様とお会いできたことを、うれしく思います。

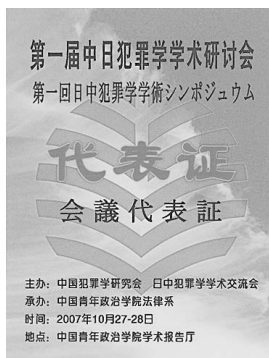
昨年6月四川省綿陽市で開催された中国犯罪学研究会の大会に、私は、ここにおられる東京大学教授の佐伯先生と一緒に報告者として参加し、日中共同で犯罪学シンポジウムを開催することが極めて有意義であることを痛感いたしました。そして、会長の王牧先生を始め、中国犯罪学研究会の役員の皆様とお別れする際に、1年後に再びシンポジウムを日中共同で開催することを約したのです。

あれから約1年5ヶ月後の今日、北京の地において、「第1回日中犯罪学学術シンポジウム」を開催することができましたが、ここに至るには、多くの方々の恩恵に与っていることを忘れてはなりません。

何よりもまず、開催への道筋を長年にわたって敷いてくださった元早稲田大学総長の西原春夫先生、ならびに中国犯罪学研究会会長の王牧先生に対しまして、心からの敬意とともに、深い感謝の念を捧げたいと思います。

次に、日中犯罪学学術シンポジウムの日本側主催団体である「日中犯罪学学術交流会」は、財団法人社会安全研究財団から多大の財政的支援を提供していただいておりますが、この会場にご臨席の上田正文専務理事に対し謝意を申し上げます。

そして最後に、本日この会場を提供して頂いている中国青年政治学院のご好意に対しまして、厚くお礼を申し述べたいと思います。



さて、今回のシンポジウムのテーマは「精神障害者危害行為に対する予防対策」ですが、このテーマは、日本側にとりましてまことに時宜に合ったテーマであると言えます。と申しますのは、日本では、最近「心神喪失者等医療観察法」が制定・施行されることにより、触法精神障害者対策に新たなシステムが導入されたからです。私を含む4人の日本側報告者は、この新しいシステムに関して興味深い報告を提供でき

るものと確信しております。

最後になりますが、第1回日中犯罪学學術シンポジウムが成功裏に終了し、次回以降の開催に向けて、犯罪学における日中友好交流の扉が更に大きく開かれんことを切望いたします。

日中犯罪学学术交流會會長
石川正興